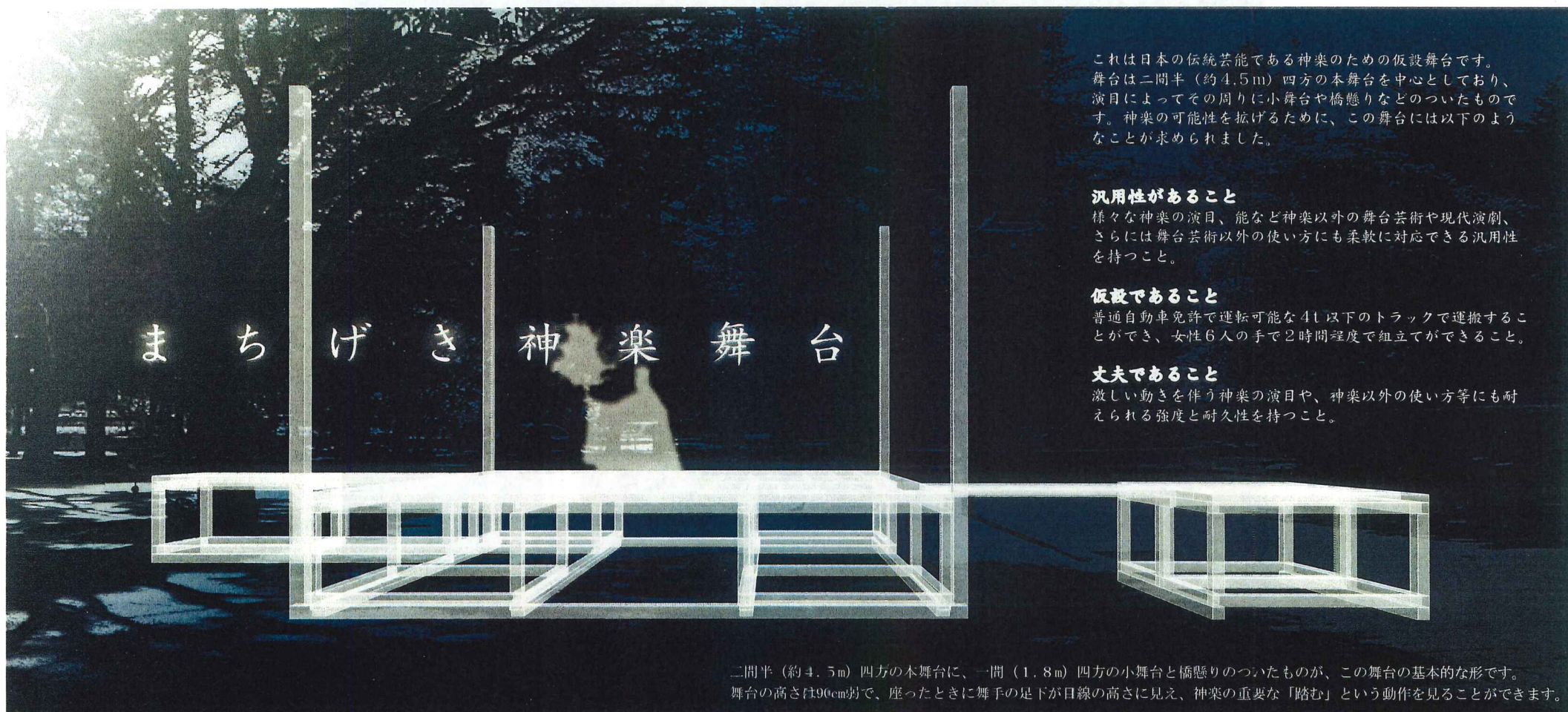




これは日本の伝統芸能である神楽のための仮設舞台です。舞台は二間半（約4.5m）四方の本舞台を中心としており、演目によってその周りに小舞台や橋懸りなどのついたものです。神楽の可能性を拓くために、この舞台には以下のようなことが求められました。

汎用性があること

様々な神楽の演目、能など神楽以外の舞台芸術や現代演劇、さらには舞台芸術以外の使い方にも柔軟に対応できる汎用性を持つこと。

仮設であること

普通自動車免許で運転可能な4t以下のトラックで運搬することができ、女性6人の手で2時間程度で組立てができること。

丈夫であること

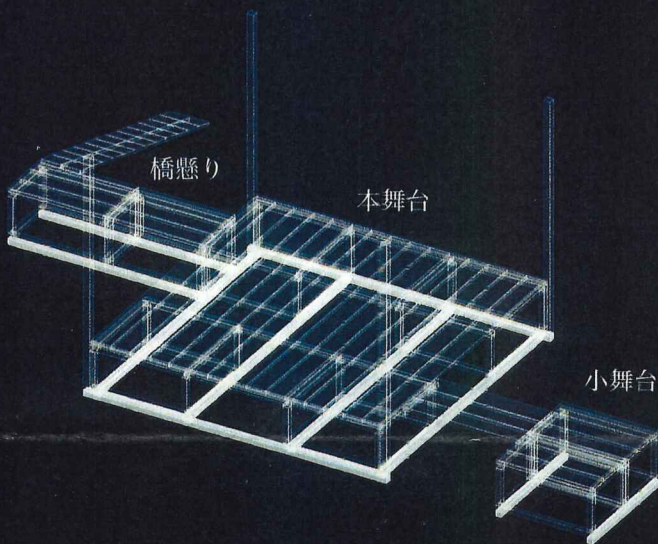
激しい動きを伴う神楽の演目や、神楽以外の使い方等にも耐えられる強度と耐久性を持つこと。

二間半（約4.5m）四方の本舞台に、一間（1.8m）四方の小舞台と橋懸りのついたものが、この舞台の基本的な形です。舞台の高さは90cm弱で、座ったときに舞手の足が目線の高さに見え、神楽の重要な「踏む」という動作を見ることができます。

組立てる

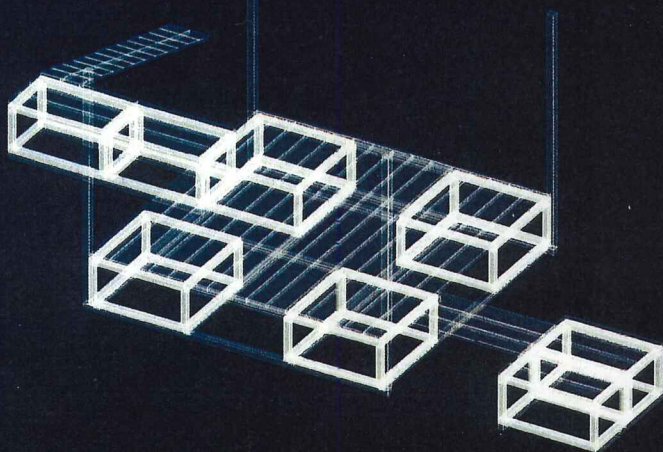
1. 上台をつくる

角材を金具で留め正方形の上台をつくり、位置を決めます。下に高さ調整材をはさむことで、水平でない場所にも建てることができます。



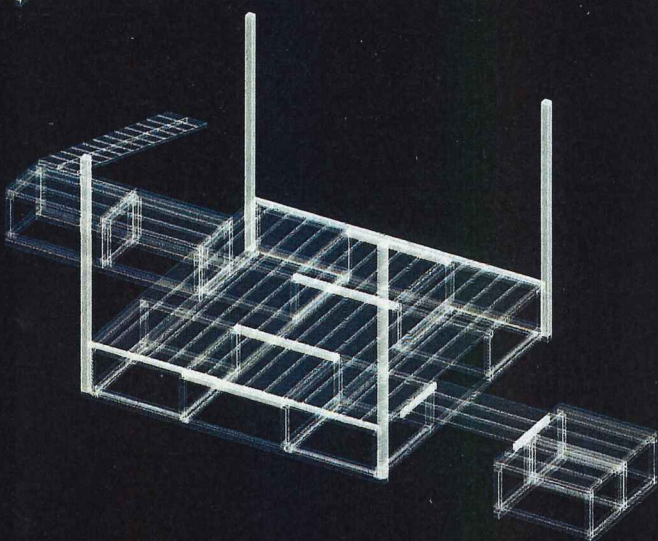
2. ボックスをのせる

上台の上に、直方体型の木造フレームでできたボックスをのせます。本舞台以外の部分のボックスは、組合せや位置を自由に変えられるので、いろいろな使い方ができます。



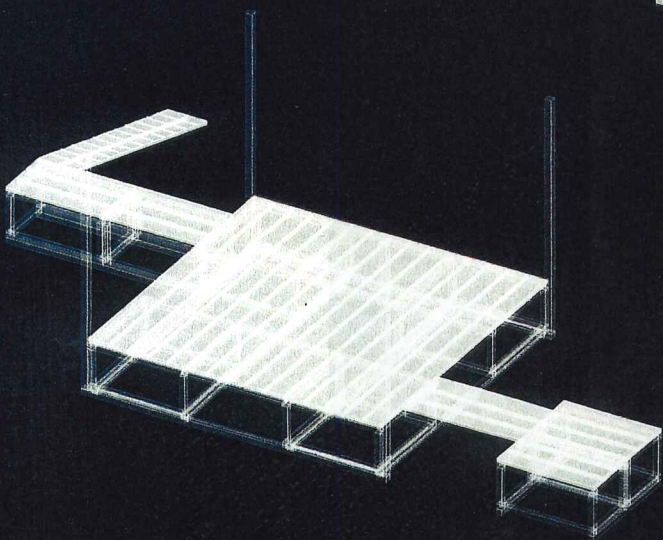
3. 柱をたてる

柱を四隅に固定し、床を張るための部材を取り付けます。柱は構造体から独立しているので取り付けが楽で、竹の柱にしたり別のものに交換することができます。



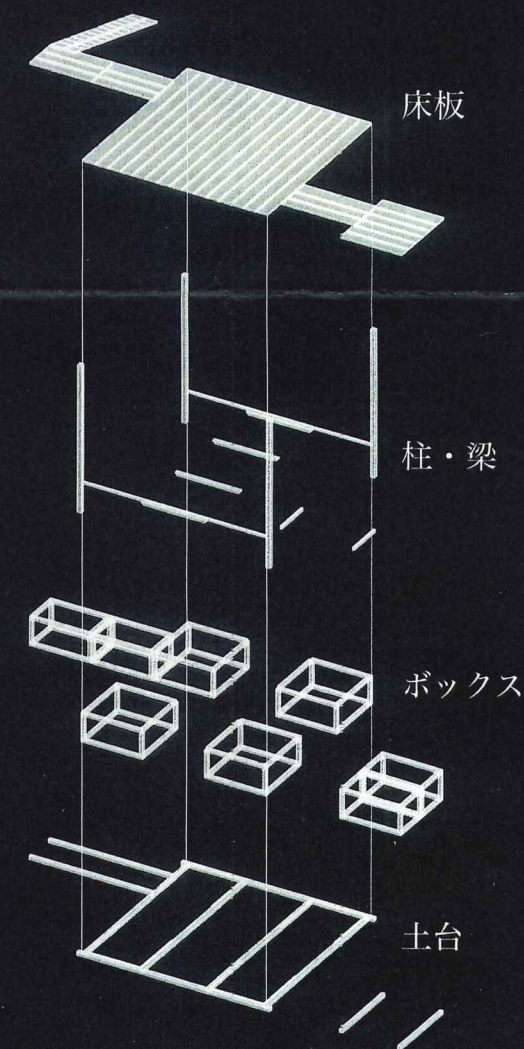
4. 床をはる

ボックスの上に床板を並べれば舞台は完成です。床板は厚めのものを使っており、激しい動きにも耐えることができます。



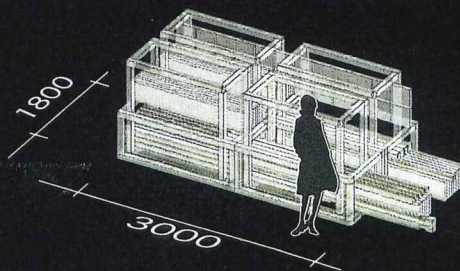
パーツの構成

少ない力で容易に組立てることができるように、パーツは軽く、しかも数を少なくしています。



運搬する・収納する

運搬や収納のときには、全てのパーツを図のようにコンパクトにまとめることができます。4tトラック（または2tロングタイプ）で運ぶことができます。



設計／製作
カグラミ(東北大学大学院 都市・建築学専攻有志)
坂口大治(東北大学助手)
一級建築士事務所 はりゅう ウッド スタジオ